農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

台湾総督府應用動物科
中央研究所 農業部 応用動物科

JAPANESE APHIDIDAE -I

By
Ryoichi Takahashi
Section of Applied Zoology, Depart. Agr.,
Government Research Institute,
Taihoku, Formosa

高橋良一著作集(第二號)

日本の蚜蟲(一)

一九二一年十月

1921, Oct.
Published by the author.

T/021
43

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

1362

著作集の發行に就て

私は自分の研究の發表機關の一として此著作集を刊行することに致しました。そして其第一號――昆蟲の翅に關する問題――は既に印刷せられ今第二號を出さんとして居ります。

其印刷費には私の甚少い收入から研究に要する費用及私等の生存費の一部等を除いた殘りを充てるのでありますから甚困難の多い事であります。然し行ける處まで行つて見ようと思ひます。

高橋良一

農業部農業試驗所典藏
由國家圖書館數位化

應用動物科

臺灣省農業試驗所
圖書室
應用動物系

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

日本の蚜蟲（一）

Ryoichi Takahashi—Japanese Aphididae—1

高橋良一

(1) クサフヂノアブラムシ

Aphis craccae L.

Kaltenbach, Monog. Aphid. P. 86 (1843); van der Goot, Beitrag. Kenntnis Holland. Blattl. P. 195 (1915).

此蚜蟲は今まで日本より報告せられなかつたが桑山覺氏及堀松次氏は北海道で多數を採集せられた。之等の標本を精査するにヨーロッパの記載と全く一致し明に A. craccae L. と見なさねばならぬ。此種の特徴は角狀管 Cornicle が甚短く尾片 Cauda と殆んど等長なることである。

寄主—クサフヂ　Vicia cracca

　　　ヤハズエンドー　Vicia sativa

分布—北海道(札幌)。　ヨーロッパ。

(2) イラクサノアブラムシ

Aphis urticaria L.

Kaltenbach, Monog. Aphid. P. 101 (1843), Buckton, Mon. Brit. Aphid, II, pp. 50-51, Pl. L1, Figs. 1-4; van der Goot, Beitrag, Kenntnis Holland Blattl. P, 235 (1915).

此種も今まで日本より報告せられなかつたが桑山覺及堀松次の二氏は札幌にて多數を採集せられた。

有翅胎生雌

頭、眼及中胸は黑し。觸角は淡黑褐にて基部は淡し。角狀管及尾片は殆んど淡黑褐にて肢は淡褐なり。緣紋及脈は淡黑褐に近し(アルコール標本)。

頭には殆んど毛なし。觸角には毛なく第三節には七—九の圓形にて少しく大形なる感覺板を殆んど全長に一列し第四節には〇—二の感覺板あり。第五及第六節の感覺板の周圍には細毛を列す、節の長さの比は次の如し。

III-28, IV-21, V-22, VI-53 (16+37)

口吻は中肢に達す。前胸、第一及第七腹節の側には小突起ありて前胸のものは最大にして割合に太く大なり。腹節の脊には細毛少數を横列す。翅は普通にて後翅の二斜脈は竝行にて鉤は三なり。角狀管は圓柱狀にして細長く第三觸角節と殆んど等長に近く尾片の約一•七倍長ありて曲らず。

體長—一•三ミ、メ、　觸角—一•〇ミ、メ、

前翅—二•〇ミ、メ、

寄主—イラクサ　Urtica thunbergiana.

分布—北海道（札幌）　ヨーロッパ

(3)　クワヤマアブラムシ

Amphorophora lonicericola n. sp.

無翅胎生雌

鮮明ならざる黄なり（生けるものは明なる黄ならん）角狀管は體と同じ色にて其先は少しく黑し。尾片及肢は體と同色なり。（アルコール標本）

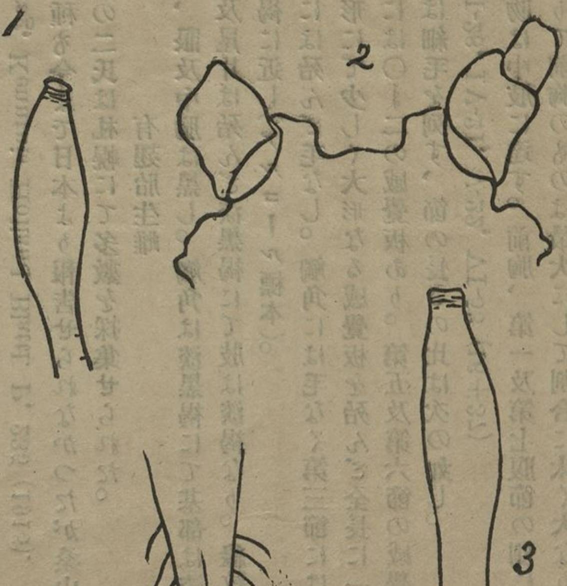
腹は膨大して球狀に近く毛を有せず。頭は少しく小形にて眼も小形なり。額瘤は明にて内側は圓く凸出す。觸角は細長く滑ならず、毛を缺く、其第一節は第二節よりは甚大にて内側甚少し凸出し第三節は感覺板を缺き節の長さの比は次の如し。

III-58, IV-28, V-30, VI-59 (18+41).

體側には突起なし。口吻は中肢に達す。角狀管は大きく中央よりも少しく先に近き部分甚太まり先端は最細くして少しく imbricate す、觸角鞭狀部と殆んど等長にして又尾片の約一・八倍長あり。

尾片は基部最太く先端に向つて少し細まり先は尖らず長さは幅の約二倍長ありて少數の長毛を有す肢は細く脛節は短剛毛を有し附節は短し。

體長—二・七ミ、メ、　觸角—二・〇ミ、メ、



第一圖　Amphorophora lonicericola

1. 有翅胎生雌の角狀管
2. 無翅胎生雌の頭
3. 同　角狀管
4. 同　尾片

有翅胎生雌

體は毛を有せず。額瘤は明なれども甚大ならずして内側は圓く凸出す。觸角は細長く滑ならず、毛を有せず、其第三節には約八—一四個の中形或は小形の圓き感覺板を散在す。之等の感覺板は先端に近き部分には無し、第四節は感覺板を缺き節の長さの比は次の如し。

農業部農業試驗所

III 55, IV-46, V-43, VI-17＋?

口吻は殆んど中肢に達し體側には突起なし。翅脈は普通にして第一、第二斜脈の兩側は少しく著色し後翅の二斜脈は竝行にて鈎は四なり。角狀管は大きく無翅形のものと同じ形なれども少しく短く第五觸角節より少し短く長さは徑の約四倍長あり又尾片の約二•五倍長あり。尾片の基部の半は太まり少數の毛あり。肢は細長く脛節には多くの毛を有し跗節は短し。

體長—二•〇ミ、メ、　觸角—約二•〇ミ、メ、

前翅—三•三ミ、メ、　角狀管—〇•三八ミ、メ、

寄主—ギンギンボク　Lonicera morrowii

分布—北海道(札幌)

桑山覺氏は一九二〇年六月十日に採集せられた。

此種は額瘤の内側が圓く少しく凸出する點は Myzus 屬の特點に一致するが角狀管の形態は Amphorophora 屬に入るものなるを示す。

從來世界には Lonicera に寄生する Amphorophora の蚜蟲は全く知られない。日本にて Lonicera に寄生する蚜蟲は此種の他にスヒカツラ Lonicera japonica に寄生する Myzus に近き屬に入る一種がある。

(4)　ゴンヅイノエダアブラムシ

Amphorophora indicum (Van der Goot)

常にゴンヅイ或はミツバウツギの枝の下面に寄生し頭を上に向けて靜止することが多い。東京附近では卵は二月中下旬頃に孵化する。之は東京附近で卵の最早く孵化する蚜蟲である。第一世代の成蟲は四月上旬頃より現はれ第二世代の成蟲は五月中旬頃現はれる。第一世代蟲は常に翅を缺くが第二世代には有翅と無翅との二形がある。此有翅の第二世代蟲の子(第三世代)は翅を有しないが無翅の第二世代蟲の子の甚少數は翅を有する。

第四世代蟲の大部は無翅であるが有翅の第二世代蟲の孫(第四世代)の一部には翅がある。第五世代以下の各世代には有翅形は少しも現はるゝことなく無翅形が胎生を續ける。卵生雌は十月中旬頃より現はれ始め常に翅を有しないが雄には有翅と無翅との二形がある又此二形の中間の形が甚普通に現はれる又翅の充分伸びないものが多い。雄は雌よりも少いから多數回交尾し雌は枝の下面に卵を產する。

分布—印度、臺灣(阿里山)日本(東京、札幌)

(5)　イヌシデノアブラムシ

Chromaphis carpinicola n. sp.

幹母(第一世代蟲)

體は黃綠、眼は紅黃なり。觸角の大部分は黃綠にて第三節以下の各節の先は黑し。前翅の大部は暗褐にて脈の先端の兩側は少しく濃く翅の緣の脈端と脈端との中間の部分は透明に近し。脈は淡褐なり。肢は黃綠にして跗節は黑し。體は太くして少しく卵形にて短き毛を有し蠟を分泌せず。眼

は大にて額瘤を缺き口吻は太くして中肢に達せず。觸角は短く甚少なる細毛の多數と長毛の甚少數とを有し第三節には全長に約一〇―一三箇の圓形又は楕圓の大なる感覺板を一列し第四節には之を缺く、各節の長さの比は次の如し。

III-36, IV-19, V-17, IV-13 (11+2)。

前翅縁紋脈は殆んど消失し第三斜脈は普通にして後翅の二斜脈は平行に近く鈎は二なり。腹は太く第二―第四腹節の兩側には各一箇の著明ならざる小突起あり。角狀管は甚少く長さは幅と殆んど等しく基部最太く中央は少し細まる。尾片は基部細まり球狀となり臀板は深く二分し長細毛少からず。陰具片 Gonapophyses は四なり。肢は細く毛多く爪間には透明なる太き毛 Empodial hair あり。

體長―一・七ミ、メ、　觸角―一・一ミ、メ、

前翅―二・五ミ、メ、

有翅胎生雌蟲（第二世代）

形は第一世代の雌と同じであるが色は次の點で異る。體の大部は暗褐にして頭は黄緑なり。觸角及肢の大部分は淡黄褐にして第三―第五觸角節の先は黑し。

産性蟲（最後の胎生世代の雌）

形は他の世代の雌と差はないが色は次の點で異る。體は殆んど橙赤にして頭は橙黄にて眼は赤し。觸角は淡褐にて各節の先は黑し。中胸は橙赤、肢の大部は淡褐にて腿節及脛節との先は黑く尾片は橙赤なり。

有翅雄

第二圖

Chromaphis carpinicola N. Sp.

1―卵生雌の觸角
2―同　後肢（一部）
3―同　角狀管
4―同　頭

黑褐にて眼は暗赤、觸角は淡黑にして第三節の基部は淡褐。腿節は殆んど黑褐にして脛節は殆んど褐なり。

體は細毛を有し口吻は殆んど中肢に達するに近し。觸角

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

の感覺板は圓形或は楕圓にして大きく各節の全長に雜然と散在し各節に於ける其數は次の如し。

III-25, IV-5, V-7+1, VI-1+4.

觸角には長毛少しあり第三節は甚太まり各節の長さの割合は次の如し。

III-23, IV-12, V-11, VI-9 (8+1)

角狀管の長さは徑よりも少なり。臀板の中央少しく凹入す。肢は甚細長く短細毛多し。

體長—一•五ミ、メ、　觸角—一•〇ミ、メ、

前翅—二•五ミ、メ、　前翅幅—一•〇ミ、メ、

無翅卵生雌

暗褐にして體の脊の中央は赤褐なり。頭は綠褐にして眼は赤く體の毛は黑し。各觸角節の先の半は黑く他は淡褐なり。體の毛の基部の周圍は黑し。角狀管及肢は殆んど黑く尾片は赤褐なり。體は卵形にして腹端の三節は細まり多くの長剛毛あり口吻は太く中肢に達せず。觸角は短く第三節は感覺板を缺き長剛毛少數あり。節の長さの比は次の如し。

III-13, IV-6, V-6, VI-7 (6+1)

腹の下面(腹端に近く)に一對の大なる黑き部分ありて蠟を分泌す。臀板は二分せず。肢は甚太くして短く長剛毛を有し後脛節はで甚太く約五十五の感覺板あり。

體長—一•六ミ、メ、　觸角—〇•六ミ、メ、

此蚜蟲の第一世代蟲及第二世代以下の世代の雌及產性蟲等の體の色には差を見るが之の如き事は此種の屬する Callipterina に多くの例を見ることである。又此種には大形 Form maxima と小形 F minina との二形を見ざることも他の Callipterina に於けるが如し。

此種の全ての胎生雌は常に翅を有し無翅形は唯卵生雌に見るのみなるが之は多くの Callipterina の有する生環の型式にて現時蚜蟲の有する最原始的生環型式ならん。

此種の卵生雌の腹には蠟を分泌する一對の黑き部分あり。之は Phyllaphis 及 Hamamelistes 等に見る所にて Weed の記したるが如く此部分より分泌せらるゝ蠟は產卵する時卵の表面に附著せらる。

生活史

寄主。イヌシデ *Carpinus Yedoensis* の枝の下面に寄生し甚稀にクマシデ *C. japonica* に寄生することあり。

東京附近にては第一世代の成蟲は五月上旬に現はる。幼蟲は產せられてより約二週間にして成蟲となる。產性蟲は十月中旬頃より現はれ有翅雄と無翅卵生雌とを生む。之等の有性蟲は十一月下旬まで在りて雄は雌よりも少し。

此蚜蟲の胎生雌は最後の脱皮をして成蟲となると直に子を產み始めることがある從て此場合胎生を始める時は母體は軟く翅は完成せず。之の如きは Myzocallis 及 Calaphis等に其例多し。

Chromaphis jnglandicola は Davidson の研究に依れば夏に有性蟲を生ずることありと云へども此文の種にては之の如き事實を見ず。

卵は寄主の幹に産せらる。卵の一端は細まり他の一端は圓くしてPsyllaの卵に少しく似るは他の多くのCalliptèrinaの卵の如く又卵の形は個體間に甚大なる差あり。卵の形の著明なる個體間の差は蚜蟲の一部例へばクリノォホアブラムシ Pterochlorus tropicalis 等に見ることなり。

此種は甚不活潑にして靜止すること多く跳躍せず。

分布—東京

(6) Neochromaphis carpini N. G. N. Sp.

Neochromaphis N. G.

Chromaphis Walker に甚近いが次の點で之と異る。(a)臀板は少しく凹入するのみにして二分せず。(b)胎生及卵生雌は腹の側に一對の大なる黒い部分を有し之より蠟を出す。

Type-Neochromaphis carpini N. Sp.

クマシデノアブラムシ

Neochromaphis carpini N. Sp.

有翅胎生雌

體は綠にして翅の大部は黒褐なり。觸角は短く第六節の鞭狀部 Spur は甚小なり。腹の下面には一對の大なる黒い部分ありて蠟を出す。臀板の中央は少しく淺く凹入す。

卵　生　雌

體は綠にして腹は少し黄を帶ぶ。眼は赤く觸角は淡黒褐にして第三節の基は淡し。肢は殆んど黒し。角狀管は黄褐なり。體の毛は黒く毛の基部の周圍は褐なり。

體は卵形にして剛毛多し額瘤は無く口吻は中肢に達す。觸角は短く甚長き剛毛少數と微小なる毛多數とあり第三節には感覺板なく節の長さの割合は次の如し。

III 22, IV-12, V-11, VI-11 (9+2)

角狀管は短く長さは徑よりも少しく大にて基部最太く中央少し細まる。尾片は球狀となり臀板の中央は少しく淺く凹入す。腹の下面(第四—第七節)には一對の大なる黒き部分ありて蠟粉を出す。肢は太くして短く細毛及甚長き剛毛あり。後脛節は甚太く其感覺板は大にして圓く數多し。

體長—一•五ミ、メ、　觸角—〇•四ミ、メ、

寄主—クマシデの枝の下面に寄生し甚不活潑なり。

此種の全ての胎生雌は常に翅を有し卵生雌は十一月頃現はる。

分布—東京。

(7) ホーノキノアブラムシ

Calaphis magnolicolens N. Sp.

有翅胎生雌

白又は淡黄にて眼は赤く觸角は白く各節の先は黒し。肢は白く脛節の先及跗節は黒し。翅は透明にて緣紋は無色にして脈は淡黄褐なり。角狀管尾片及腹の小突起は白し。體は少しく細長くして軟く細毛少數を有し腹の小突起は明ならず。額瘤は明なり然し甚大ならず。口吻は殆んど中肢の

農業部農業試驗所 AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

基部に達す。眼は大ならず其突出部は小なり。觸角は甚細長く殆んど毛を有せず。第三節の基部の半には約八―一五の圓き感覺板を一列し第四節は之を缺き節の長さの割合は次の如し。

III-38, IV-24, V-23 VI-50 (7+43)

翅脈は普通にして縁紋脈は殆んど明なり。後翅の二斜脈は並行ならずして鈎は二なり。角狀管は小にして長さは徑よりも少しく大にて中央少しく細まり基部最太し。尾片は短く細毛多數を有し基部は殆んど細まらず。臀板の中央は少しく淺く凹入す。肢は細長く短細毛多し。

體長―二●〇ミ、メ、　觸　角―二●七ミ、メ、

前翅―二●七ミ、メ、　前翅幅―一●〇ミ、メ、

此有翅形の觸角節の長さの比は個體により少しく差あるが予は次に示すが如く第六節の甚短き異常形一匹を採れり

III-40, IV-33, V-30, VI-19 (8+11).

卵

産せられたる時は淡黄なるが後に黑となる。卵の一端は細まりて少しく Psylla の卵に似、その個體間に形の變異甚少し。

長徑―〇●四ミ、メ、

生　活　史

寄主ホホノキ Magnolia hypoleuca.

葉裏に寄生す。幼蟲は葉の脈の兩側に寄生すれども成蟲及若い幼蟲は必しも脈の兩側に在らず。

東京にて卵の孵化するは四月下旬―五月上旬にして五月下旬に第一世代の成蟲を見る。第二世代の成蟲は六月上旬より現はる。此蚜蟲の胎生雌は常に翅を有し第二世代以下の幼蟲は産せられてより成蟲となるまでに約十五日を要す一生環の單性世代は約十世代にして有翅雄及無翅卵生雌は十月中旬頃より現はる。雄は雌よりも少し。此蚜蟲の胎生雌は最後の脱皮を終つて成蟲となると直に子を産み始め從で其時は體は軟く翅は充分伸びず。然し卵生雌は成蟲となつてより長時間を經て産卵するものにて予は一九一七年十月十四日に成蟲となれる卵生雌の三匹は十月二十一日より産卵を始むるを觀察したり。

卵は寄主の幹の表面上に主に縱に産み著けらる。此種の卵は四月下旬頃より孵化し始めるが之は東京附近で最孵化時期の晩きものなり。之は寄主ホホノキの芽の萌發する時期が甚晩く四月下旬頃なるに因るべし。ゴンヅイノエダアブラムシの卵は二月頃孵化するが之は枝に寄生するために孵化期が早いのであらう。

分布―東京

(8)　イヌマキノアブラムシ

Neophyllaphis podocarpi Takah.

胎生雌には有翅と無翅との二形があるが産性雌 Sexuales は普通翅を有せず。

産性蟲の同一個體は有性蟲 Sexuales と無翅胎生雌との二

形を胎生するを得。卵生雌及雄は常に翅を有し東京附近にては五月頃にも現はる。雄は少し。

此種の卵生雌は最後の脱皮をして成蟲となつて後暫時にして交尾することがある。此場合其雌の體は軟く又翅は未だ充分伸びずして軟なるため脊上の雄のために踏み破られ飛行すること能はざるに至る。

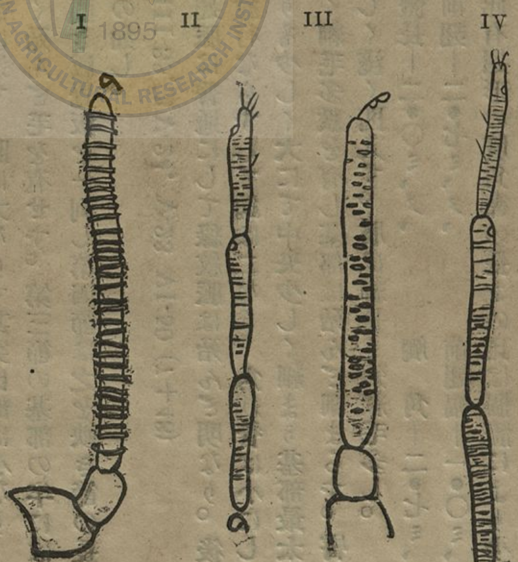
分布—東京、臺灣島

第三圖

Neophyllaphis podocarpi Tak.

I—II 有翅卵生雌の觸角

III—IV 有翅雄の觸角



農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

(9) ナシノワタムシ

Prociphilus pyri (Fitch)

Eriosoma pyri, Fitch, 4th Ann. Rept. N. Y. St. Cab. Nat. Hist. P. 68 (1851).

Prociphilus pyri, Baker, Jl. Agr. Research, V. 23, P. 1116 (1918); Essig and Kuwana, Proc. Cal. Acad. Sc. VIII, 3, P. 106 (1918).

予は堀松次氏が一九二一年七月九日北海道琴似にてニレ Ulmus campestris の蟲癭より採集せられし一種蚜蟲の有翅胎生雌を檢し其全く P. Pyri (Fitch) に一致するを見た。之によれば此蚜蟲は Eriosoma lanigera 等の如き生活史を有するものであらう。乃ち一部の個體は一年中常に梨に寄生して無翅胎生の世代を重ねて寄主の變轉をしないが梨に寄生せるもの、一部は秋に有翅胎生雌となつて楡に移り雄と卵生雌とを産する。其卵は楡にて冬を越し翌春、孵化せる無翅胎生雌は葉に蟲癭を作り其子は有翅胎生雌となつて蟲癭を出て楡を去て梨に移るのであらう。

予の檢せる標本は次の如くである。

(a) 一九二一年七月八日、堀松次氏が北海道琴似にて楡の蟲癭に採集せる有翅胎生雌及其幼蟲。

(b) 一九二一年六月二十六日桑山覺氏が北海道余市にて梨に採集せる有翅胎生雌。

有翅胎生雌(楡にて採集せられしもの)

頭、眼、觸角、中胸及肢は黑。腹は黃褐。翅は少しく淡黑を帶び緣紋は淡黑にて脈は褐を帶ぶ(アルコール標本)。

頭の蠟腺は不明。觸角は少しく太く第三節には二六―三〇、第四節には八―一一、第五節には七―一一、第六節には〇―三の橫に細長き感覺板あり。此感覺板は不規則に置かれ節の半を捲かず。節の長さの比は次のし。

III-30, IV-13, V-16, VI-19

口吻は中肢に達せず。中胸脊には小なる楕圓形に近き一對の蠟腺あり。前翅第一及第二斜脈は基部合せず後翅二斜脈は平行ならずして鈎は三なり。跗節は割合に長し。

體長―二•三ミ、メ、　觸角―一•〇ミ、メ、

前翅―三•二ミ、メ、

分布―日本(北海道、本州)、北アメリカ。

標本を惠送せられた桑山覺氏と堀松次氏とに厚く感謝します。

Japanese Aphididae—1.

by

Ryoichi Takahashi.

Calaphis magnolicolens N. Sp.

Winged viviparous female.

White or pale yellow. Eyes red. Antennae white, with the apices of joints black. Legs white. apices of tibiae and tarsi black. Wings hyaline; stigma colourless; veins pale yellowish brown.

Cornicles, cauda and abdominal tubercles white. Body oblong, soft, provided with a few hairs. Frontal tubercles distinct, but not large. Rostrum almost reaching the middle legs. Eyes rather small, ocular tuebrcles small.

Antennae very long and slender, almost lacking hairs, the 3rd joint provided with 8-15 circular sensoria in a row on the basal half; the 4th joint lacking sensoria, the relative legnth of joints as follows:

III-38, IV-24, V-23, VI-50 (7+43).

Wing-veins normal; hind wings with 2 divergent obliques hooklets 2.

Abdominal tubercles very small, not distinct. Cornicles small, slightly longer than wide, somewhat constricted about the middle, dilated at the base. Cauda almost not or very slightly constricted at the base, provided with many hairs. Anal plate somewhat sinuated. Legs slender, with many short hairs. Lehgth of body-2.0 mm. Antenna-2.7mm.-Fore wing 2.7 mm, width of fore wing 1.0mm.

Host.-Magnolia hypoleuca.

Hab.-Tokyo.

Chromaphis carpinicola N. Sp.

Winged viviparous female

(The first generation)

Yellowish green. Eyes reddish yellow. Antennae yellowish

green, with the apices of joints black. Wings almost dark brown, veins pale brown. Legs yellowish green; tarsi black. Body stout, provided with some short hairs lacking wax glands. Eyes large. Frontal tubercles absent. Rostrum stout, not reaching the middle legs. Antennae short, provided witha few long bristles and numerous very minute hairs; the 3rdjoint provided with 10-13 large circular and oval sensoria in a row over the whole length; the 4th joint lacking sensoria;the relative length of joints as follows:

III-36, IV-19, V-17, VI-13 (11+2).

Stigmatic vein almost obsolete; hind wings with 2 almost parallel obliques; hooklets 2. Abdomen stout, the 2nd,3rd and 4th segments provided with a small not prominent tubercle on the side. Cornicles very small, almost as long as wide, dilated at thebase, somewhat constricted about the middle. Cauda knobbed. Anal plate deeply bilobed, with many long hairs. Gonapophyses 4.

Legs slender, with many hairs; tarsi provided with transparent empodial hairs.

Length of body-1.7mm. Antenna-1.1mm. Fore wing-2.5 mm.

Winged viviparous female

(The second generation)

Differs from the female of the 1st generation in the points as follows:

(1) Dark brown. Head yellowish green.

(2) Antennae almost pale yellowish brown, with the apices of joints black.

(3) Legs almost pale yellowish brown

Host.-Carpinus Yedoensis.

Hab.-Tokyo.

Neochromaphis new genus.

Differs from Chromaphis Walk. as follows:

(1) Anal plate very slightly sinuated.

(2) Viviparous and oviparous females provided with a pair of large wax plates on the side of the abdomen.

Type-Neochromahis carpini N. Sp.

Neochromaphis carpini N. Sp.

Winged viviparous female

Green. Wings dark brown. Antennae very short, 6-jointed; spur very small. Abdomen provided with a pair of large black wax plates on the side. Cornicles small, almost as long as wide, constricted about the middle. Cauda knobbed. Anal plate very slightly sinuated.

Wingless oviparous female.

Green, with black hairs arising from small brown spots. Abdomen slightly yellowish. Eyes red.

Antennae pale blackish brown, paler at the base of the

third joint. Legs almost black.

Cornicles yellowish brown.

Body oval, provided with many stout bristles. Frontal tubercles absent. Rostrum reaching the middle legs. Antennae short, provided with a few very long bristles and numerous very minute hairs; the 3rd joint lacking sensoria; the relative length of joints as follows

III-22, IV-12, V-11, VI-11 (9+2)

Cornicles short, almost as long wide, constricted about the middle, dilated at the base. Cauda knobbed. Anal plate very slightly sinuated, Abdomen provided with a pair of large black plates on the side, from which white wax is serected. Legs short and stout, provided with manybristles; hind tibiae very thick, provided with numerous rather large, circular sensoria scattered over the whole length. Leugth of body-1.5mm. Antenna-0.4mm.

Host. Carpinus japonica, attacking the twig.

Hab.-Tokyo.

Amphorophora lonicericola N. Sp.

Wingless viviparous female

Dirty yellow. Cornicles dirty yellow, with black apices. Cauda and legs dirty yellow (alcoholic specimens).

Body oval, lacking hairs. Head rather small. Frontal tubercles prominent, moderately projecting inwards. Eyes rather small.

Antennae long and slender, imbricated, lacking hairs; the 1st joint somewhat convex on the inner side; the 3rd joint lacking sensoria; the relative length of joints is as follows:

III-58, IV 28, V-30, VI 59 (18+41).

Rostrum reaching the middle legs. Body lacking tubercles. Cornicles large and stout, much dilated about the middle, slightly imbricated at the apex, almost as long as the antennal spur, about 1.8 times as long as the cauda. Cauda tapering twice as long as wide, rounded at the apex, with a few pairs of lateral bristles.

Legs slender, tibiae provided with some short bristles; tarsi short.

Body-2.7mm. Antenna-about 2.0mm.

Winged viviparous female.

Body lacking hairs. Frontal tubercles prominent, but not very large, projecting inwards.

Antennae long and slender, imbricated, lacking hairs, the 3rd joint provided with 8-14 circular sensoria of median and small size almost over the middle part not in a row, the 4th joint lacking sensoria; the relative length of joints as follows:

III-55, IV-46, V-43, VI 17+ ?

Rostrum almost reaching the middle coxae Body lacking tubercles Wings normal; the 1st and 2nd obliques slightly fuscous clouded; hind obliques parallel; hooklets 4. Cornicles

stout, much dilated about the middle, slightly imbricated at the apex, a little shorter than the 5th antennal joint, almost 4times as long as wide, about 2.5 times as long as the cauda. Cauda abruptly broadened on the basal half, with a few bristles. Legs long and slender, tibiae provided with many setae; tarsi short.

Body-2.0mm. Antenna-about 2.0mm.

Fore wing-3 3mm. Cornicle 0.38mm.

Host.-Lonicea morrowü

Hab.-Jappan (Sapporo).

臺灣省農業試驗所 圖書室 應用動物系

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

大正十年十月十八日印刷
大正十年十月二十日發行

臺北市頂內埔三百八十五番戶
著作兼發行者　高橋良一

臺北市撫臺街二丁目百四十六番戶
印刷者　船橋寬一

臺北市撫臺街二丁目百四十六番戶
印刷所　臺北印刷株式會社

T/021

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895